

確かな学力を身につける授業の創造
～活用力を伸ばす授業の工夫～

白河市立白河中央中学校 (代表) 校長 大越 憲峰 教諭 渡邊 知幸

1 研究の趣旨

活発な話し合いによって考えをまとめたり、習得の時間を確実に確保し、補充的な問題だけでなく、より発展的な問題に取り組ませたりするなど高いレベルでの習得と活用のバランスを意識した授業を目指す必要があることから、各教科における活用力の定義を明確化し、それをもとに具体的な手立てを設定することで、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用して思考し、判断し、表現するなどの活用力をさらに高めたいと考えた。

そこで、活用力を伸ばす授業実践の工夫を通して、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

「生徒が課題をはっきりとらえ、基礎的・基本的な知識を活用し、課題が解決できる授業」を行えば、「課題解決のために、身につけたことを活用することができる生徒」が育まれるであろう。

2 研究の概要

- (1) 各教科における活用力の定義と活用力を伸ばすための手立ての設定
- (2) 授業の工夫

生徒が課題をはっきりとらえ、基礎的・基本的な知識を活用し、課題が解決できる授業

1. 課題提示の方法を工夫し、本時の目標を明らかにする。
(1) 指導内容を構造的に把握する。
(2) 本時のねらいを明確にする。
(3) 既習事項を確認し、学習に必要な基礎・基本をそろえる。
(4) 課題提示の仕方を工夫する。

2. 生徒が知識・技能を活用して意欲的に課題解決に取り組めるように工夫する。
(1) 自力解決の時間を十分に確保する。
(2) 既習の知識や技能が活用できる活動を工夫する。
(3) 表現の場を設定する。
(4) 学習形態を工夫して、学びが共有できるようにする。

3. 生徒の習得のための時間を確保する。
(1) 生徒が確実に習得するための時間を設定する。
(2) 一般化・日常化し、発展的学習や補充的学習で深化させる。
(3) 指導と評価の一体化を図る。

- (3) 基礎学力の保証・学習規律の徹底
 - ① 基礎学力コンテストの実施
 - ② 「学習時の5カ条」の定着
 - ③ 家庭学習の習慣化
- (4) 教科指導部会や各教科部会の活性化と同僚性の向上

3 成果と今後の課題

- (1) 成果
 - ① 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均を上回ることができた。
 - ② 各教科において、「活用力」の定義を明確にすることで、「確かな学力」を身につけるための具体的な手立てを各教科で設定し、検証することができた。
 - ③ 学習実態調査（学習に関する生徒アンケート）の結果
 - ・「学習時の5カ条」が定着し、学習環境づくりへの効果が確認できた。
 - ・授業が楽しい、工夫されていると回答した生徒が8割以上で、学ぶ意欲を高めることができた。
 - ・8割の生徒が授業を「わかった・できた」という実感を持ち、習得と活用のバランスのとれた授業をめざした研究の方向に確証をもつことができた。
 - ④ 自主学習ノートの提出率や家庭学習時間から、学習の習慣化への効果が確認できた。
 - ⑤ 教科部会の時間が時間割に設定されていることから、検証授業の時間を教科部会内の時間で実施した。それにより、自習体制をとらなくても同一教科内で授業参観が可能になり、教科部会の活性化や同僚性の向上につながった。
- (2) 課題
 - ① 話し合い活動を行ったときに、主体的・協働的な学習スタイルをコーディネートしていく授業力の向上が、さらなる学力の向上に向けて必要である。